



難波っ子

令和4年度 6月号
尼崎市立難波小学校
校長 難波佳代子

平和学習・・・6年生修学旅行へ

梅雨の季節を迎え、アジサイのつぼみが膨らみ、色づき始めました。コロナ禍でも季節は巡り自然の植物がたくましく伸びていく様は、勇気と希望を与えてくれます。

先日は、オープンスクールを3年ぶりに実施したくさんの方に来校いただいたこと、うれしく思っています。また、お忙しい中、緊急時に備えた引き渡し訓練にもご協力いただきありがとうございました。子どもたちにとっておうちの方に見ていただけることは、何より頑張るエネルギーになります。ご家庭でも、学校のことを話題にいただき、励ましと支援をよろしくお祈りします。

さて、6月2日・3日の1泊2日で6年生が例年通り広島へ修学旅行に行きます。市内では数校だけですが、平和学習の一環として、広島への修学旅行は意義深いと思っています。「平和学習」とは、「平和」を「学ぶ」ということです。学習指導要領では、「平和学習は、戦争によってもたらされる惨禍や核兵器の脅威への理解、世界平和についての考察を行うことなどを目的」としています。広い意義では、「人間の生命の尊厳を否定する一切の暴力に反対し、平和を愛し平和社会の実現に貢献しようとする人間を育てる教育」です。

戦争といえば第二次世界大戦を示すことが多いですが、大昔から**争い**は続いてきました。だから、歴史を学ぶことは過ちを繰り返さないためにとっても大事です。また、平和学習を行うことで、戦争の悲惨さを知り、人々の悲しみや苦しみを共感的に理解する。それによって、戦争はいやだ、戦争をしてはいけないと感じる。それなのになぜ戦争は起こるのか疑問を持ち主体的に考える。戦争が起きるのを防ごうとする態度を育む。本校では、「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」など国語や道徳で事実や心情を学習します。社会科・読み聞かせ・読書でも知る機会を設けています。6年生になると、総合で広島について学びます。語り部の方からも戦争の体験談を聞きます。そして、修学旅行が学びの集大成です。そこに、平和への願いを込めて全校生で作った千羽鶴を手向けます。

一般的に「平和」というと、**争いやもめ事のないこと**を言います。**もめ事**は、他の考えの人を認めようとしないことから始まり、自分の身の回りにも起こりうることです。ほんの些細なことから、実は「平和」は失われていくのです。「平和学習」とは、戦争の悲惨さや残酷さを学ぶことは勿論ですが、その歴史や現実をしっかりと受け止めた上で、自分たちが平和に過ごすために、これからの未来のために互いに小さな違いを認め、相手を思いやることも学んでほしいと考えています。まずは相手の意見を聞く。それぞれの思いを尊重する。違った意見を認め合う。ときには譲り合いながら「平和」にみんなと生活していくために自分はどうしたらよいか考える機会になることを願っています。ウクライナ情勢や沖縄の日本復帰50年の社会情勢を踏まえると、6年生の修学旅行は今まで以上に平和について主体的に考える機会だと考えています。「平和について」親子読書等機会を設けてご家庭でもお子さんと意見を交流してみてください。